令和８年度　全国学力・学習状況調査の結果について

船橋市教育委員会

１　調査の概要

（１）調査の目的

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）調査日時

令和８年４月２３日(木)

※中学校英語４技能はCBT方式での調査。実施期間は令和８年４月２０日（月）～５月２７日（水）のうち、学校ごと文部科学省より指定された日時で実施

（３）調査対象及び参加児童生徒数

・小学校第６学年（５５校　５，１５０名）
・中学校第３学年（２６校　４，６５７名）

（４）教科に関する調査

①小学校　　国語、算数　　②中学校　　国語、数学、英語４技能
※中学校英語４技能のみ CBT 方式で調査を実施。

（５）生活習慣や学校環境等に関する調査

①児童生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等の調査
②学校における指導方法に関する取組や、人的・物的な教育条件の整備の状況等の調査

（６）本市の調査結果について

各教科における平均正答率

小学校	国語	算数
船橋市	62	57
千葉県	61	56
全　国	60.9	56.4

中学校	国語	数学	英語４技能
船橋市	65	61	520
千葉県	64	57	498
全　国	63.9	57.0	499

※文部科学省の発表に基づき、全国平均正答率は小数第１位まで、県・市の平均正答率は小数点以下を四捨五入した結果を示す。
※全国は、公立小中学校の平均正答率を示す。
※中学校英語４技能は IRT スコアにて表示

２　教科に関する調査の結果について

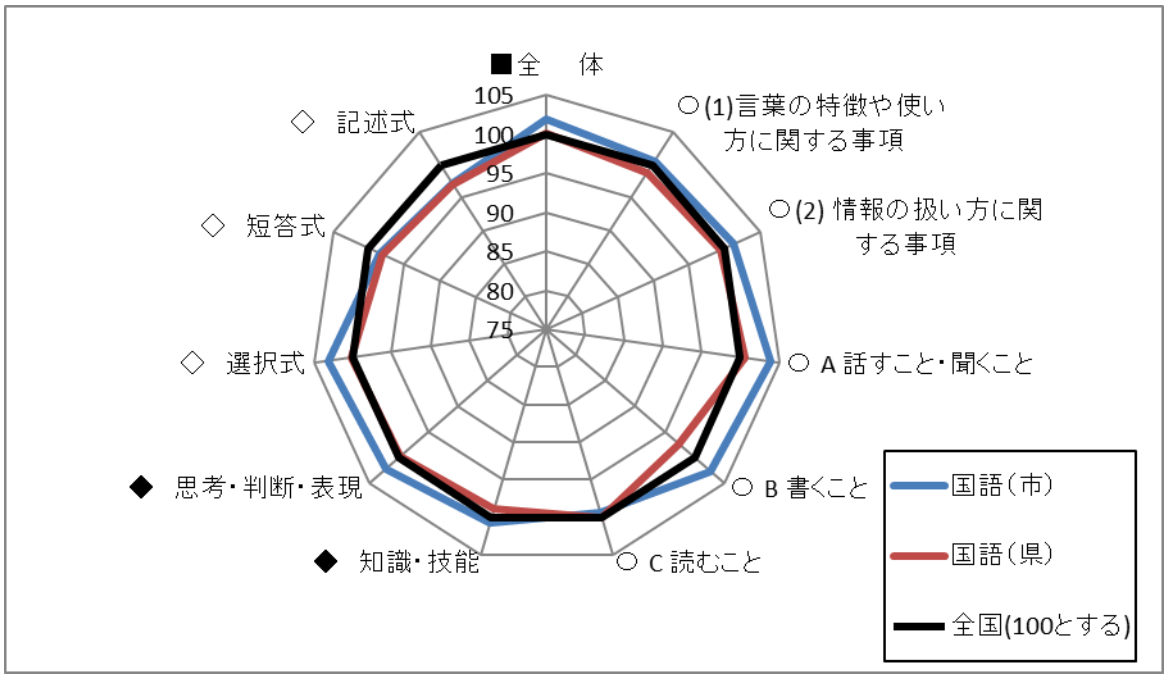
（１）学習指導要領の領域（内容）、評価の観点、問題形式別の比較

平均正答率の状況について詳細な把握を行うために、学習指導要領の内容、評価の観点、問題形式別に全国及び千葉県と船橋市との比較を行った。

≪小学校≫　国語　　※全国，千葉県，船橋市，共に公立学校

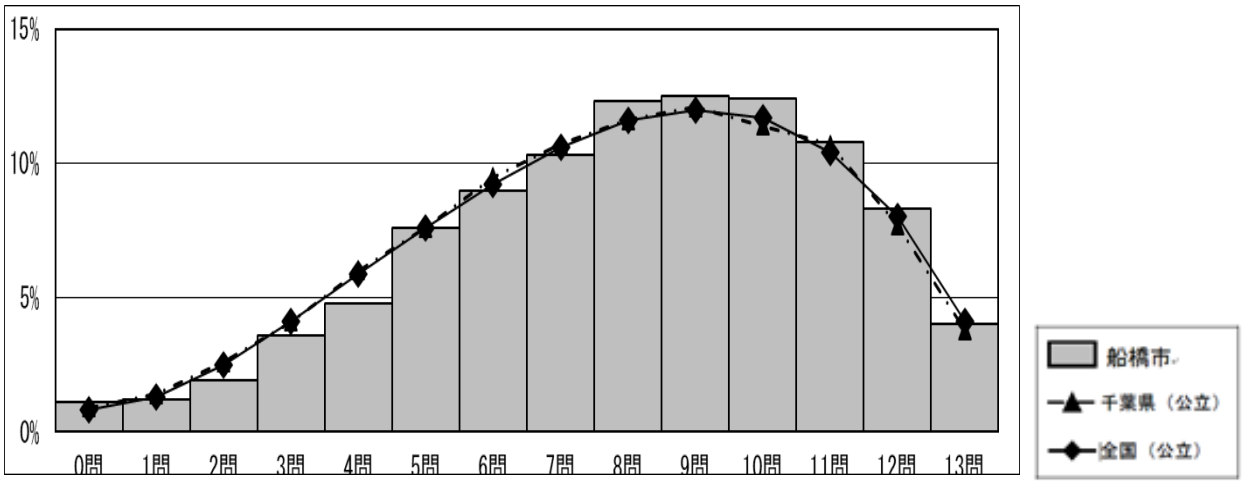
国語				船橋市	千葉県	全国	全国との差
平均正答率（%）	全　体			62	61	60.9	1.1
	学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	67.2	66.0	66.8	0.4
			(2) 情報の扱い方に関する事項	53.0	52.0	52.3	0.7
			(3) 我が国の言語文化に関する事項				
		思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	68.4	66.2	65.8	2.6
			B　書くこと	46.9	44.5	45.7	1.2
			C　読むこと	65.5	65.9	65.9	▲ 0.4
	評価の観点		知識・技能	62.5	61.3	62.0	0.5
			思考・判断・表現	61.4	59.9	60.1	1.3
			主体的に学習に取り組む態度				
	問題形式		選択式	63.9	62.0	61.9	2.0
			短答式	61.6	61.4	62.6	▲ 1.0
			記述式	53.4	53.3	54.9	▲ 1.5

※斜線は該当する設問が無いもの　　平均正答率が全国，千葉県共に上回ったもの



※全国を100として船橋市と千葉県の比較を百分率で表したグラフ
※今年度、該当する設問がなかったものについてのグラフは省略。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)　〔国語〕



傾　向

・全国の平均正答率と比較すると、学習指導要領の内容別においては、「話すこと・聞くこと」「書くこと」は全国・県の平均を上回っているが、「読むこと」に関しては全国・県の平均を下回っており、課題である。問題形式別においては、「選択式」は全国・県の平均を上回っているが、「短答式」「記述式」に関しては全国平均を下回っており、課題である。
・無解答率については、全国・県と比べて全体的に高い。
・正答数の分布は、全国・県とほぼ同様の分布を示している。また、最頻値や正答率の散らばりに関する値も、全国・県と同様であり、中央値についても、全国・県の値と同様であった。

課題が見られた主な設問

２三ア　「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるか」
＜言葉の特徴や使い方に関する事項＞（正答率　船橋市 78.9 全国 80.0）

３三（２）「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるか」
＜読むこと＞（正答率　船橋市 74.7 全国 76.4）

学習指導のポイント

＜文や文章の中で、漢字を正しく使う指導の充実＞

漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うようにすることが重要である。また、文や文章を書く際には、同音異義語に注意するなど、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが重要である。具体的には、同音異義語の語句や漢字を調べ、その意味を比べる活動を通して、字義の理解や漢字を使うことのよさを実感できるようにするなどの方法が考えられる。

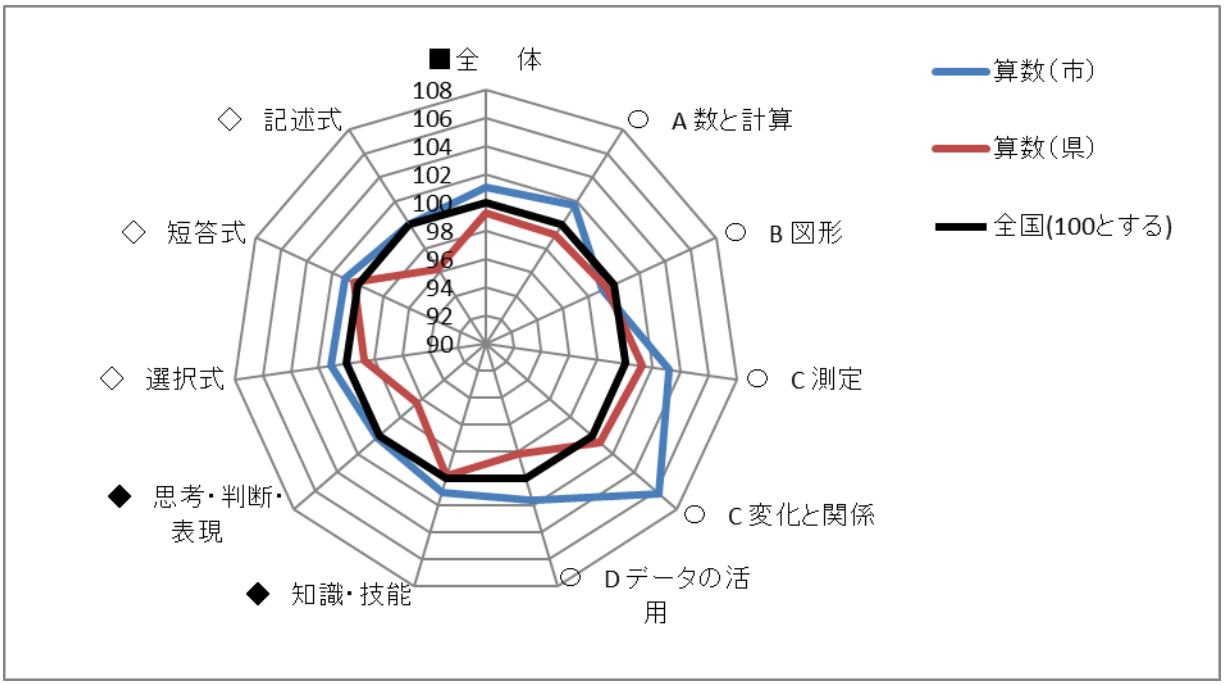
＜文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる指導の充実＞

文章を読んで自分の考えをまとめるためには、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことに基づき、既有の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成することが重要である。学習指導に当たっては、文章を読んで理解したことを整理したり、理解したことの中から既有の知識や経験などに結び付くものを考えたりしながら、自分の考えをまとめるよう指導することが大切である。児童の考えの過程は、構造と内容を把握し、精査・解釈をし、考えを形成するという一定の順序で進む場合と、考えを形成しながら、構造と内容を把握したり、精査・解釈をしたりするなど、往還する場合が考えられる。そのため、児童の学習過程を計画する際には、一人一人に合った学習過程になるよう柔軟に設定することが大切である。

≪小学校≫　算数　　※全国，千葉県，船橋市，共に公立学校

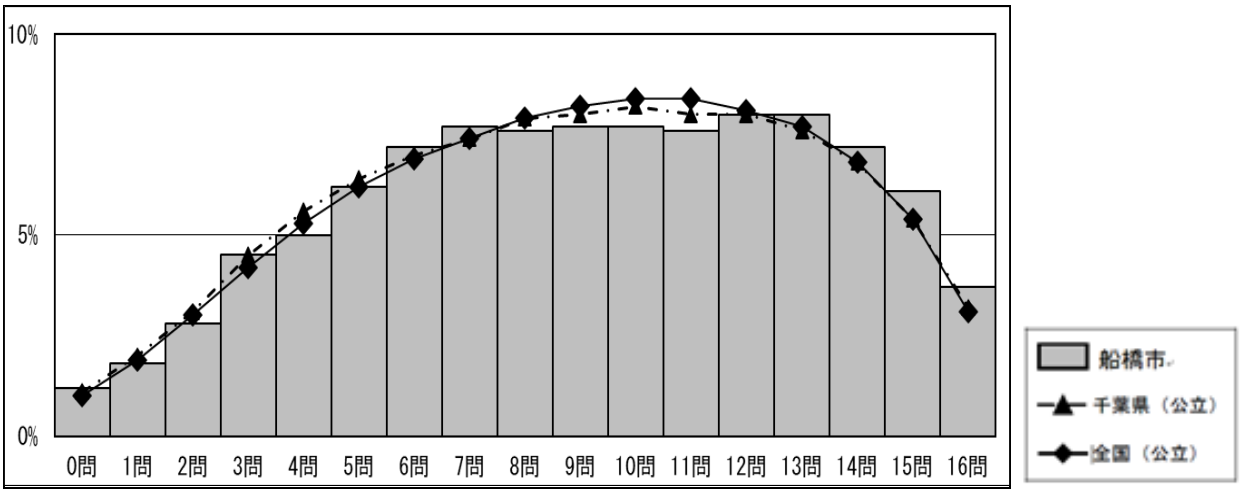
算　数			船橋市	千葉県	全国	全国との差
平均正答率（%）	全　体		57	56	56.4	0.6
	学習指導要領の領域	A　数と計算	62.1	60.6	61.1	1.0
		B　図形	54.8	55.0	55.3	▲ 0.5
		C　測定	80.6	79.1	78.1	2.5
		C　変化と関係	43.7	41.4	41.1	2.6
		D　データの活用	49.4	47.7	48.6	0.8
	評価の観点	知識・技能	60.7	60.0	60.1	0.6
		思考・判断・表現	45.5	43.8	45.4	0.1
		主体的に学習に取り組む態度				
	問題形式	選択式	56.6	55.3	56.0	0.6
		短答式	60.3	59.9	59.7	0.6
		記述式	48.5	46.7	48.5	0.0

※斜線は該当する設問が無いもの　　平均正答率が全国，千葉県共に上回ったもの



※全国を100として船橋市と千葉県の比較を百分率で表したグラフ
※今年度、該当する設問がなかったものについてのグラフは省略。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)　〔算数〕



傾　向

・学習指導要領の領域における「図形」の平均正答率が全国平均を若干下回ったが、全体的にはどの領域、観点、形式においても全国・県の平均正答率と同水準以上である。
・無解答率については、全国平均とほぼ同等であるものの、「変化と関係」「データの活用」の領域については高くなっていた。
・正答数の分布は、全国・県とほぼ同様の分布を示している。中央値については全国と同様であったが、第１四分位は全国・県よりも１問高く、第３四分位は全国より１問低かったことから、全国・県と比較したときにより中央値に寄った結果であったことが見てとれる。

課題が見られた主な設問

２（３）「単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうか」
＜変化と関係＞（正答率　船橋市 36.7 全国 36.1）

４（３）「二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうか」
＜データの活用＞（正答率　船橋市 20.1 全国 17.9）

学習指導のポイント

＜日常生活の様々な問題場面において事象を数理的に捉え、数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察できるようにする指導の充実＞

「割合」及び「単位量あたりの大きさ」の学習では、一つの数量だけでは比べることのできない場面において、関わりのある二つの数量を見いだし、二つの数量の関係どうしで比べられることを理解できるようにすることが大切である。

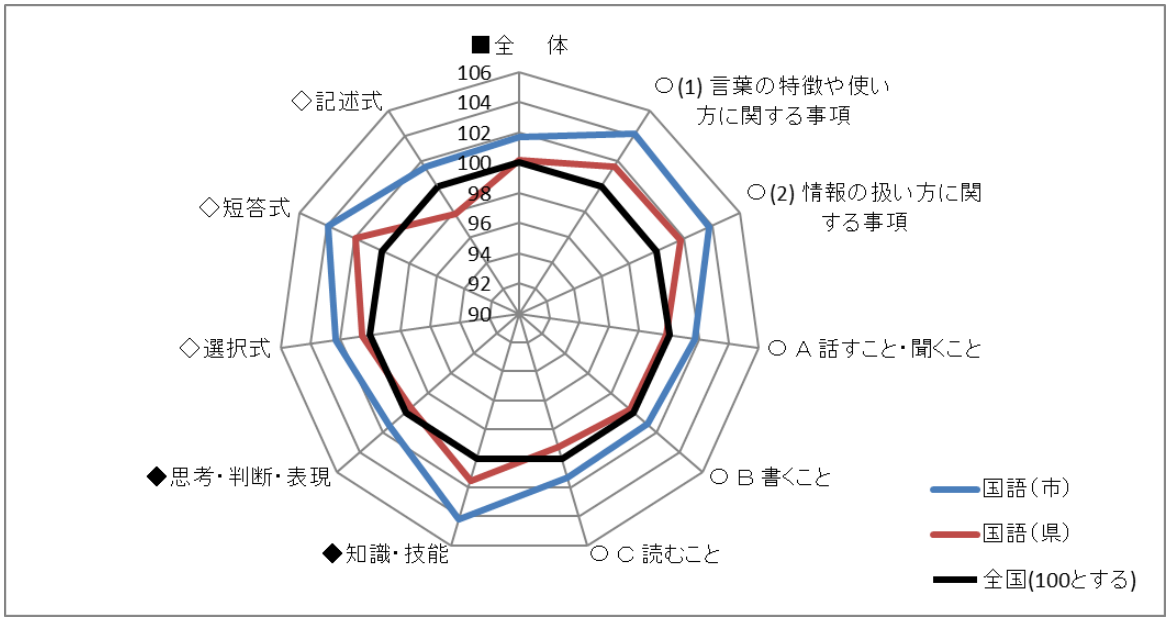
＜目的に応じて、データを集めて分類整理し、問題を解決するために適切な表やグラフを選んで表現したり、読み取ったりできるようにする指導の充実＞

目的に応じて、統計的に解決可能な問題を設定し、観点を決めてデータを収集、分類整理し、適切な表やグラフを選んで表現したり、読み取ったりできるようにすることが大切である。

≪中学校≫　国語　　※全国，千葉県，船橋市，共に公立学校

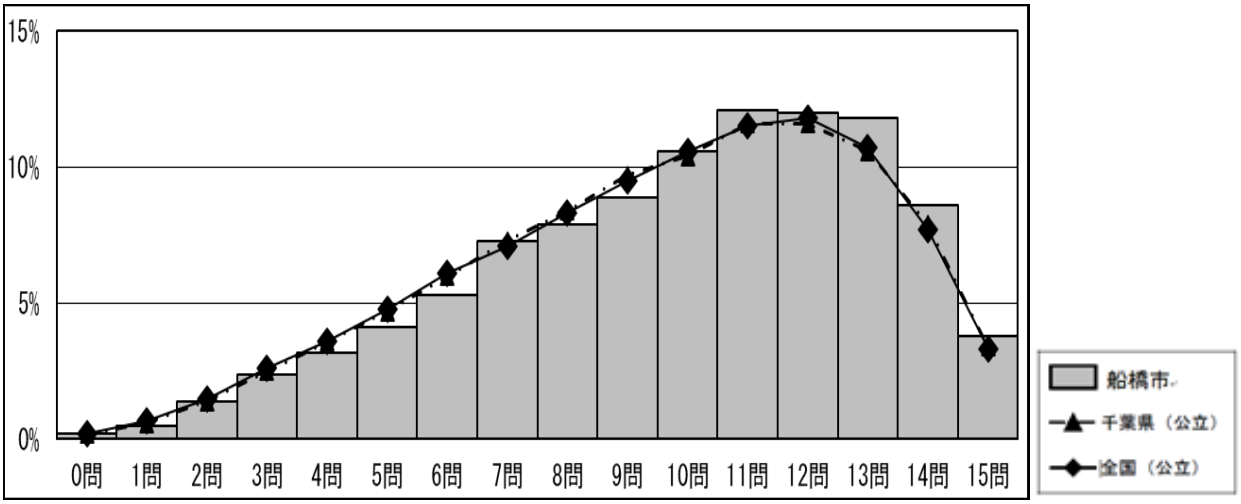
国語				船橋市	千葉県	全国	全国との差
平均正答率（%）	全　体			65	64	63.9	1.1
	学習指導要領の内容	知識及び	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	65.6	64.0	63.0	2.6
			(2) 情報の扱い方に関する事項	73.1	71.6	70.4	2.7
			(3) 我が国の言語文化に関する事項				
		思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	65.0	63.8	63.9	1.1
			B　書くこと	68.2	67.2	67.4	0.8
			C　読むこと	60.5	59.2	59.7	0.8
	評価の観点		知識・技能	66.9	65.2	64.2	2.7
			思考・判断・表現	64.6	63.4	63.7	0.9
			主体的に学習に取り組む態度				
	問題形式		選択式	74.4	73.1	72.7	1.7
			短答式	58.0	56.9	55.8	2.2
			記述式	46.2	44.5	45.5	0.7

※斜線は該当する設問が無いもの　　平均正答率が全国，千葉県共に上回ったもの



※全国を100として船橋市と千葉県の比較を百分率で表したグラフ
※今年度、該当する設問がなかったものについてのグラフは省略。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)　〔国語〕



傾　向

・平均正答率は、全ての項目で全国・県の結果を上回った。学習指導要領の内容別においては「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」が、評価の観点別においては「知識・技能」が、特に全国平均を上回った。
・無解答率については、全国・県と比較し、評価の観点別における「思考・判断・表現」に関する設問で高い傾向にあった。
・正答数の分布は、全国・県とほぼ同様の分布を示している。また、最頻値や正答率の散らばりに関する値も、全国・県と同様であり、中央値についても、全国・県の値と同様であった。

課題が見られた主な設問

２四　「互いの立場や考えを尊重し合いながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるか」
　　＜話すこと・聞くこと＞（正答率　船橋市 52.3 全国 52.7）
３二　「表現の効果を考えて描写することができるか」
　　＜書くこと＞（正答率　船橋市 91.9 全国 92.3）
４一　「文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉えることができるか」
　　＜読むこと＞（正答率　船橋市 71.4 全国 71.6）

学習指導のポイント

＜互いの立場や考えを尊重し合いながら話し合い、結論を導くために考えをまとめる指導の充実＞

　互いの立場や考えを尊重しながら話し合うためには、話合いに参加している者が、それぞれの置かれた立場や意見が出された背景について理解しながら話したり聞いたりすることが重要である。一方的に自分の考えを主張するのではなく、互いの考えを捉える中で見いだした共通点や相違点、新たな提案などを踏まえて、話合いが進展するように、自分の考えが伝わるような発言をすることが大切である。

＜表現の効果を考えて描写する指導の充実＞

　表現の効果を考えて描写するとは、その語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えながら、より効果的な語句や表現を選んで描写することである。例えば、随筆など他の文章を読んで、用いられている表現の工夫に着目し、どのような効果があるかなどについて検討した上で、自分の書く活動へ生かす学習が考えられる。

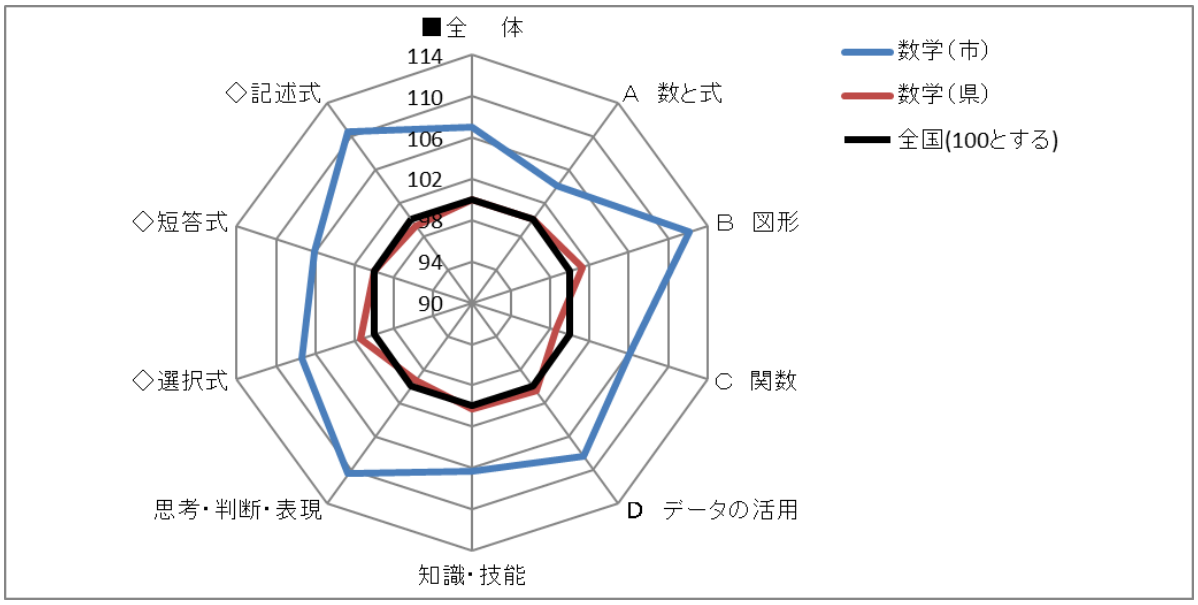
＜文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉える指導の充実＞

　段落ごとに内容を捉えたり段落相互の関係を押さえたりしながら、文章全体における役割を捉えることが重要である。例えば、段落ごとに内容を捉えるためには、キーワードやキーセンテンスなどに留意して情報を整理することが考えられる。その上で、段落と段落とを繋ぐのに適切な接続詞などを考えさせて、段落同士の関係を捉えることなども効果的である。

≪中学校≫　数学　　※全国，千葉県，船橋市，共に公立学校

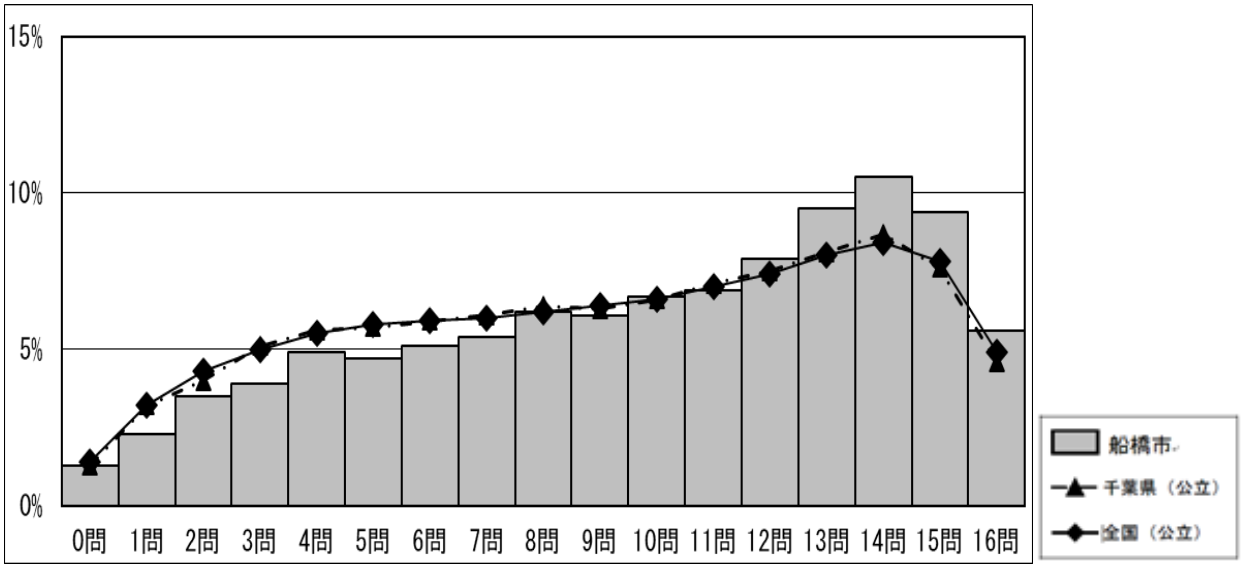
数　学			船橋市	千葉県	全国	船橋市
平均正答率（%）	全　体		61	57	57.0	4.0
	学習指導要領の領域	A　数と式	70.5	67.8	67.8	2.7
		B　図形	54.6	49.3	48.7	5.9
		C　関数	58.1	54.0	54.8	3.3
		D　データの活用	58.0	53.8	53.5	4.5
	評価の観点	知識・技能	67.0	63.2	63.0	4.0
		思考・判断・表現	43.2	38.8	39.1	4.1
		主体的に学習に取り組む態度				
	問題形式	選択式	63.7	60.1	59.3	4.4
		短答式	68.1	64.2	64.2	3.9
		記述式	43.2	38.8	39.1	4.1

※斜線は該当する設問が無いもの　　平均正答率が全国，千葉県共に上回ったもの



※全国を100として船橋市と千葉県の比較を百分率で表したグラフ
※今年度、該当する設問がなかったものについてのグラフは省略。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)　〔数学〕



傾　向

・平均正答率は全国、県と比較し概ね同等以上である。学習指導要領の内容別における「関数」「データの活用」分野および問題形式における「記述式」が全国、県平均よりも高い結果を得られてはいるものの、全体的に低い結果であるため課題である。
・無解答率については、全国、県とほぼ同等である。問題形式では「記述式」の無回答率が突出して高かった。
・正答数の分布は、全国・県とほぼ同様の分布を示している。また、最頻値や正答率の散らばりに関する値も、全国・県と同様であり、中央値についても、全国・県の値と同様であった。

課題が見られた主な設問

7（2）「素数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうか」
＜関数＞　（正答率　船橋市 37.1 全国 33.9）

9（3）「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうか」
＜データの活用＞（正答率　船橋市 32.9 全国 31.9）

学習指導のポイント

＜事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実＞

様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、表、式、グラフなどを用いて、それらをどのように用いたかについて数学的に説明する活動を充実することが大切である。その際、不十分な説明を取り上げ、よりよい表現へと洗練する活動を取り入れることが考えられる。

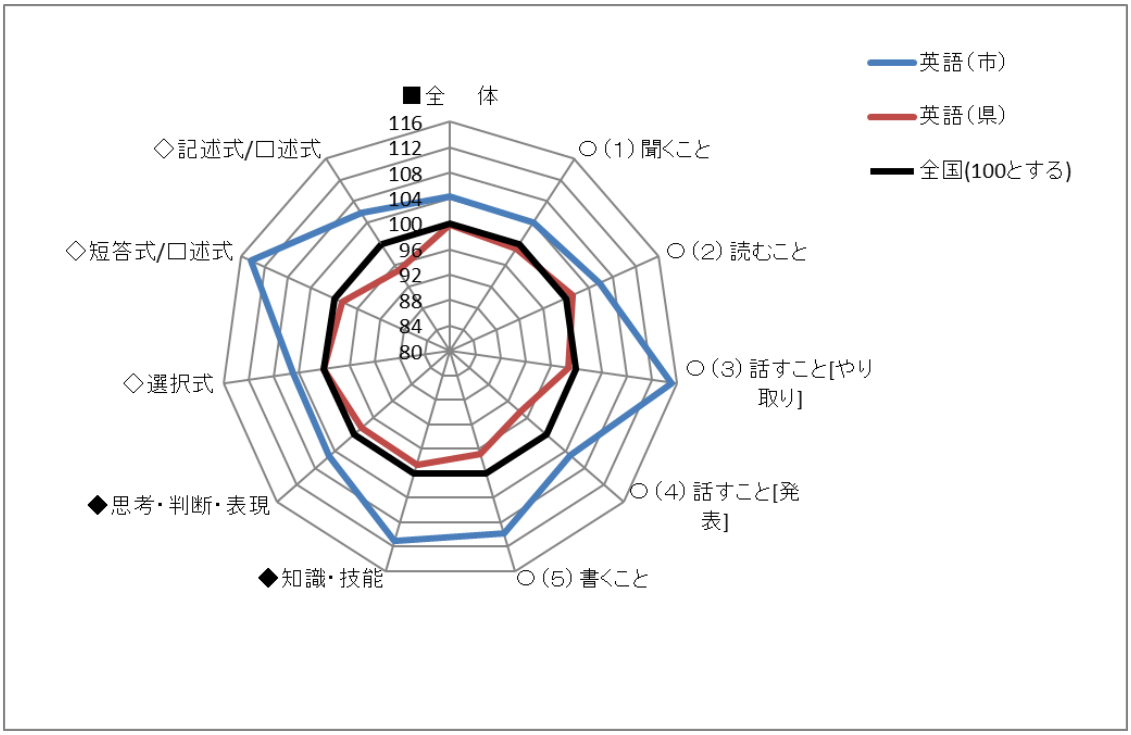
＜データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する活動の充実＞

二つの集団のデータの分布の傾向を比較してその特徴を捉え、数学的な表現を用いて説明する活動を取り入れることが大切である。その際、二つの度数分布多角形の形や位置関係など、様々な特徴を基に判断の理由を説明できるようにすることが大切である。

≪中学校≫　英語　　※全国，千葉県，船橋市，共に公立学校

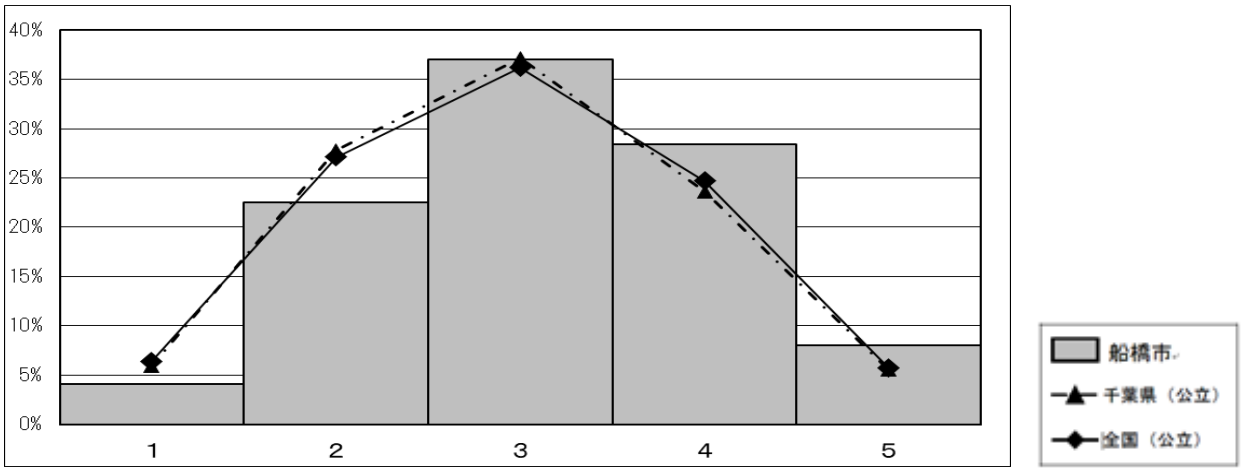
理科			船橋市	千葉県	全国	全国との差
平均正答率（%）	全　体（平均IRTスコア）		520	498	499	21.0
	学習指導要領の領域	（１）聞くこと	65.3	62.3	62.8	2.5
		（２）読むこと	63.5	60.7	60.0	3.5
		（３）話すこと[やり取り]	41.4	35.5	36.0	5.4
		（４）話すこと[発表]	39.0	35.2	37.2	1.8
		（５）書くこと	47.3	41.8	43.1	4.2
	評価の観点	知識・技能	55.1	48.9	49.6	5.5
		思考・判断・表現	51.4	48.1	48.9	2.5
		主体的に学習に取り組む態度				
	問題形式	選択式	64.4	61.5	61.4	3.0
		短答式／口述式	50.2	43.3	43.9	6.3
		記述式／口述式	39.1	35.1	37.0	2.1

※斜線は該当する設問が無いもの　　平均正答率が全国，千葉県共に上回ったもの



※全国を100として船橋市と千葉県の比較を百分率で表したグラフ
※今年度、該当する設問がなかったものについてのグラフは省略。

IRTバンド分布グラフ(横軸：IRTバンド、縦軸：割合)　〔英語〕



傾　向

・平均 IRT スコアは全国・千葉県ともに比較すると高かった。IRT バンド分布グラフを参照すると１，２，の割合は全国、県よりも低く、３，４，５の割合が全国、県よりも高いことが特徴である。

・平均正答数は全国、県と比べて高い数値であった。問題難易度別の正答率も全国、県平均と比較して高かった。学習指導要領の領域別においては、全ての領域が全国・県の平均正答率より高かった。特に「話すこと（やり取り）」と「書くこと」の領域が、突出して高かった。問題形式では、全てにおいて全国・県の平均と比べ高かった。

・無解答率については、全国よりも高いが千葉県より低かった。問題形式では「記述式/口述式」の無回答率が高かった。特に「話すこと（発表)」に課題が見られた。

課題が見られた主な設問

１９【話すこと　ウ】「社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる。(問題難易度：５)
＜「話すこと（発表)」を柱とする領域＞（正答率　船橋市 26.0 全国 25.8)

学習指導のポイント

＜「話すこと」＞社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すこと

知識を活用して話すことに課題があると考えられる。話している内容が理解できたのか、話すべき内容が思い浮かばなかったのか、英語の表現が分からなかったのか、生徒の課題がどこにあるのかを見取り、生徒の学習状況に応じた指導を行うことが大切である。

指導にあたっては、話し手が最も伝えたいことを確認した上で、賛成か反対かなどの立場を明確にさせ、それを「自分の考え」と「その理由」を話すことから指導をしていくことが大切である。また、表現の仕方が分からなかったり、表現に誤りがあったりする場合には、どのような表現がよりよいか学級全体で共有したり、言語材料について理解し、練習するための指導を行うことが大切である。

（２）設問別の状況

①平均正答率が全国と比べ高い主な設問（「差」は、本市と国との平均正答率の差）

≪小学校≫

教科名	設問番号	設　問　の　概　要	差
国語	１二（１）	【動画の一部】の工夫として適切なものを選択する	4.4
	２一	花山さんの文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	3.7
	３一	【文章】の特徴として適切なものを選択する	3.2
	１二（２）	【動画の一部】の太線囲みの部分の工夫として適切なものを選択する	2.7
	３二	傍線部①、②、③について【林さんのメモ】にどのように整理したのかを説明したものとして適切なものを選択する	2.0

教科名	設問番号	設　問　の　概　要	差
算数	２（４）	赤いテープの長さが、白いテープの長さの１．５倍になっている図を二つ選ぶ	4.4
	１（４）	四つの箱のまとめ方によって宅配便の送料に違いがあるかを調べるために、直方体イの送料の求め方とその答えを書く	2.7
	２（２）	イシガメ１４匹が動物園全体のカメの数の２０%に当たるときの、動物園全体のカメの数を求める式と答えを書く	2.6
	１（２）	直方体の箱の形の六つの面のうち、四つの面が示されたとき、残りの二つの面の縦と横の長さを書く	2.6
	４（２）	昔遊びの計画を見て、全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間は何分間かを書く	2.5

≪中学校≫

教科名	設問番号	設　問　の　概　要	差
国語	３一	文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する（とる）	7.0
	１二	「投げられる」を説明したものとして適切なものを選択する	3.1
	２二	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	3.0
	３三	文章の展開の意図を説明したものとして適切なものを選択する	2.8
	２三	話合いを受けて整理したタブレット端末の画面を説明したものとして適切なものを選択する	2.7
	４四	二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く	2.6

教科名	設問番号	設　問　の　概　要	差
数学	９（１）	全校生徒の睡眠時間の度数分布表において、最小の階級から６時間以上７時間未満の階級までの累積度数を求める	8.3
	８（２）	図１において、ＡＢ＝ＡＰ、ＯＢ＝ＯＰならば∠ＡＯＢ＝∠ＡＯＰであることを、三角形の合同を基にして証明する	7.2
	８（３）	図２において、証明する事柄における仮定となる辺や角の関係を選ぶ	6.0
	８（１）	∠ＡＯＢの大きさがａ°のとき、∠ＰＯＢの大きさをａを用いた式で書く	5.5
	３	四角形ＰＱＲＳにおいて、ＰＳ平行ＱＲを示すための根拠となる二つの角を書く	4.9
	６（３）	手順にしたがってできたＡとＢについて、Ａ－Ｂの値がどんな数になるかを、選んだ２数の差に着目して説明する	4.7

教科名	設問番号	設　問　の　概　要	問題の難易度	差
英語	１１①	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	3	8.4
	１１②	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	3	6.9
	１５（２）ｂ	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に自分の家に来てもらうように依頼する	4	6.6
	6	文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する	3	5.0
	１５（２）ａ	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生からの質問を聞き、明日しようと思っていることを伝える	4	4.9
	１５（１）	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に明日の天気を伝える	5	4.8
	5	住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する	4	4.6
	7	誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する	3	4.2

②平均正答率が全国に比べ低い主な設問（「差」は、本市と国との平均正答率の差）

≪小学校≫

教科名	設問番号	設　問　の　概　要	差
国語	３三（２）	【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く	▲1.7
	２四	【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く	▲1.3
	２三ア	【花山さんの文章の一部】の下線部アを、漢字を使って書き直す（みじか - い）	▲1.1
	２三イ	【花山さんの文章の一部】の下線部イを、漢字を使って書き直す（ふしぎ）	▲1.0

教科名	設問番号	設　問　の　概　要	差
算数	１（１）	一辺が８ｃｍの立方体の体積を求める式を書く	▲9.1
	３（４）	５／３を表す目盛りが示された数直線上で、１を表す目盛りを選ぶ	▲2.0
	３（３）	７／３と７／４のどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く	▲1.4
	４（１）	全員分のアンケートが整理されていない学級を見付け、その根拠となる人数を表１と表２の中から書く	▲1.2

≪中学校≫

教科名	設問番号	設　問　の　概　要	差
国語	２四	話合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く	▲0.4
	３二	気持ちがより伝わるように、表現を工夫して書く	▲0.4
	４一	文章全体を三つに分けて整理したものとして適切なものを選択する	▲0.2
	３四	書いた文章について、交流を基にして、「この文章のよい点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く	▲0.1

教科名	設問番号	設　問　の　概　要	問題の難易度	差
英語	１２	中学生になってからの思い出を１つ取り上げ、そこで体験したことと感想を書く	4	▲0.5

※中学校数学は平均正答率が全国に比べ全ての問題でプラスであったため記載なし。

３　質問調査の結果について

（１）児童生徒質問調査

①調査結果〔取組状況に関するもの〕

※調査内容について、「１：している」「２：どちらかといえばしている」や「１：当てはまる」「２：どちらかといえば当てはまる」等、肯定・否定の形式で回答する項目のうち、肯定的な回答を選択した割合で比較。

≪小学校≫

◇全国に比べ該当する児童の割合が高い項目◇

・総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか

集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

	回答
船橋市	82.8ポイント
全国	79.7ポイント

全国差　＋3.1ポイント

１の回答について

船橋市　44.2ポイント（全国差　＋4.2ポイント）

・英語の勉強は得意ですか

集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

	回答
船橋市	60.8ポイント
全国	59.8ポイント

全国差　＋1.0ポイント

１の回答について

船橋市　30.6ポイント（全国差　＋1.7ポイント）

・自分には、よいところがあると思いますか

集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

	回答
船橋市	86.4ポイント
全国	85.6ポイント

全国差　＋0.8ポイント

１の回答について

船橋市　42.8ポイント（全国差　－0.8ポイント）

◆全国に比べ該当する児童の割合が低い項目◆

・５年生までに受けた授業では、算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか

集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

	回答
船橋市	54.7ポイント
全国	63.0ポイント

全国差　－8.3ポイント

１の回答について

船橋市　23.6ポイント（全国差　－4.2ポイント）

・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

	回答
船橋市	62.9ポイント
全国	70.6ポイント

全国差　－7.7ポイント

１の回答について

船橋市　27.0ポイント（全国差　－6.9ポイント）

・あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか

集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

	回答
船橋市	76.0ポイント
全国	81.5ポイント

全国差　－5.5ポイント

１の回答について

船橋市　26.1ポイント（全国差　－5.2ポイント）

≪中学校≫

◇全国に比べ該当する生徒の割合が高い項目◇

・英語の勉強は得意ですか

集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

	回答
船橋市	47.4ポイント
全国	39.5ポイント

全国差　＋7.9ポイント

１の回答について

船橋市　24.7ポイント（全国差　＋7.2ポイント）

・総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか

集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

	回答
船橋市	84.0ポイント
全国	81.7ポイント

全国差　＋2.3ポイント

１の回答について

船橋市　40.3ポイント（全国差　＋3.0ポイント）

・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

	回答
船橋市	92.4ポイント
全国	91.3ポイント

全国差　＋1.1ポイント

１の回答について

船橋市　53.6ポイント（全国差　＋2.9ポイント）

◆全国に比べ該当する生徒の割合が低い項目◆

・あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか

集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

	回答
船橋市	60.5ポイント
全国	67.5ポイント

全国差 －7.0ポイント

１の回答について

船橋市　29.3ポイント（全国差 －4.9ポイント）

・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか

集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

	回答
船橋市	72.0ポイント
全国	78.0ポイント

全国差 －6.0ポイント

１の回答について

船橋市　23.6ポイント（全国差 －4.7ポイント）

・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

	回答
船橋市	66.7ポイント
全国	71.9ポイント

全国差 －5.2ポイント

１の回答について

船橋市　30.4ポイント（全国差 －3.0ポイント）

②調査結果〔時間・頻度に関するもの〕

※調査内容について、「１：ほぼ毎日」「２：週３日以上」や「１：３時間以上」「２：２時間以上、３時間より少ない」等、**時間・頻度の形式で回答する項目のうち、より多い（長い）回答を選択した割合**で比較。

≪小学校≫

◇全国に比べ該当する児童の割合が高い項目◇

・５年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

集計選択肢：１．ほぼ毎日（１日に複数の授業で活用）

２．ほぼ毎日（１日に１回くらいの授業で活用）

	回答
船橋市	50.1ポイント
全国	43.0ポイント

全国差 ＋7.1ポイント

１の回答について

船橋市　23.2ポイント（全国差 ＋2.7ポイント）

・家庭学習の課題（宿題）として、どの程度、PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか

集計選択肢：１．ほぼ毎日、２．週３回以上

	回答
船橋市	18.4ポイント
全国	14.0ポイント

全国差 ＋4.4ポイント

１の回答について

船橋市　9.3ポイント（全国差 ＋2.5ポイント）

・土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

集計選択肢：１．４時間以上、２．３時間以上、４時間より少ない

	回答
船橋市	12.0ポイント
全国	9.6ポイント

全国差 ＋2.4ポイント

１の回答について

船橋市　8.5ポイント（全国差 ＋2.2ポイント）

◆全国に比べ該当する児童の割合が低い項目◆

・５年生までにうけた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれましたか

集計選択肢：１．よくある、２．たまにある

	回答
船橋市	70.7ポイント
全国	78.1ポイント

全国差 －7.4ポイント

１の回答について

船橋市　19.8ポイント（全国差 －7.7ポイント）

・５年生までにうけた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれましたか

集計選択肢：１．よくある、２．たまにある

	回答
船橋市	68.2ポイント
全国	75.1ポイント

全国差 －6.9ポイント

１の回答について

船橋市　22.1ポイント（全国差 －7.9ポイント）

≪中学校≫

◇全国に比べ該当する生徒の割合が高い項目◇

・１、２年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

集計選択肢：１．ほぼ毎日（１日に複数の授業で活用）
２．ほぼ毎日（１日に１回くらいの授業で活用）

	回答
船橋市	65.0ポイント
全国	55.1ポイント

全国差 ＋9.9ポイント
１の回答について
船橋市　34.3ポイント（全国差 ＋5.0ポイント）

・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

集計選択肢：１．３時間以上、２．２時間以上３時間より少ない

	回答
船橋市	35.8ポイント
全国	30.1ポイント

全国差 ＋5.7ポイント
１の回答について
船橋市　10.9ポイント（全国差 ＋2.0ポイント）

・土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

集計選択肢：１．４時間以上、２．３時間以上４時間より少ない

	回答
船橋市	16.2ポイント
全国	13.1ポイント

全国差 ＋3.1ポイント
１の回答について
船橋市　6.4ポイント（全国差 ＋1.3ポイント）

◆全国に比べ該当する生徒の割合が低い項目◆

・１、２年生のときに受けた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれましたか

集計選択肢：１．よくある、２．たまにある

	回答
船橋市	63.7ポイント
全国	71.8ポイント

全国差 －8.1ポイント
１の回答について
船橋市　19.3ポイント（全国差 －7.2ポイント）

・１、２年生のときに受けた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれましたか

集計選択肢：１．よくある、２．たまにある

	回答
船橋市	65.8ポイント
全国	73.0ポイント

全国差　－7.2ポイント

１の回答について

船橋市　18.1ポイント（全国差　－7.4ポイント）

③調査結果〔その他抜粋〕

※全国との結果の差などは考慮せず、調査結果の中で特筆すべき数値や傾向を抜粋。

■道徳教育に関わる調査項目■

・人の役に立つ人間になりたいと思いますか

集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

小学校	回答
船橋市	95.8ポイント
全国	95.8ポイント

全国差　±0.0ポイント

１の回答について

船橋市　68.9ポイント（全国差　－1.9ポイント）

中学校	回答
船橋市	94.5ポイント
全国	95.9ポイント

全国差　－1.4ポイント

１の回答について

船橋市　66.5ポイント（全国差　－3.3ポイント）

・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

小学校	回答
船橋市	95.8ポイント
全国	96.2ポイント

全国差　－0.4ポイント

１の回答について

船橋市　78.6ポイント（全国差　－2.5ポイント）

中学校	回答
船橋市	93.9ポイント
全国	95.1ポイント

全国差　－1.2ポイント

１の回答について

船橋市　71.7ポイント（全国差　－4.6ポイント）

・人が困っているときは、進んで助けていますか

集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

小学校	回答
船橋市	92.1ポイント
全国	92.7ポイント

全国差　－0.6ポイント

１の回答について

船橋市　45.3ポイント（全国差　－2.0ポイント）

中学校	回答
船橋市	89.4ポイント
全国	90.8ポイント

全国差 －1.4ポイント
１の回答について
船橋市　36.5ポイント（全国差 －4.3ポイント）

・あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか
集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

小学校	回答
船橋市	67.1ポイント
全国	69.6ポイント

全国差 －2.5ポイント
１の回答について
船橋市　38.6ポイント（全国差 －1.0ポイント）

中学校	回答
船橋市	60.5ポイント
全国	67.5ポイント

全国差 －7.0ポイント
１の回答について
船橋市　29.3ポイント（全国差 －4.9ポイント）

■学校生活に関する調査項目■

・学校に行くのは楽しいと思いますか
集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

小学校	回答
船橋市	84.5ポイント
全国	85.7ポイント

全国差 －1.2ポイント
１の回答について
船橋市　45.7ポイント（全国差 －2.3ポイント）

中学校	回答
船橋市	85.1ポイント
全国	85.4ポイント

全国差 －0.3ポイント
１の回答について
船橋市　45.8ポイント（全国差 ＋0.6ポイント）

・授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか
集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

小学校	回答
船橋市	89.2ポイント
全国	91.4ポイント

全国差 －2.2ポイント
１の回答について
船橋市　49.3ポイント（全国差 －3.4ポイント）

中学校	回答
船橋市	90.4ポイント
全国	92.4ポイント

全国差 －2.0ポイント
１の回答について
船橋市　46.1ポイント（全国差 －2.9ポイント）

■教職員との関わりに関する調査項目■

・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

小学校	回答
船橋市	88.7ポイント
全国	91.4ポイント

全国差 －2.7ポイント

１の回答について

船橋市　45.4ポイント（全国差 －8.0ポイント）

中学校	回答
船橋市	89.2ポイント
全国	90.9ポイント

全国差 －1.7ポイント

１の回答について

船橋市　43.4ポイント（全国差 －3.3ポイント）

・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか

集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

小学校	回答
船橋市	83.9ポイント
全国	87.3ポイント

全国差 －3.4ポイント

１の回答について

船橋市　44.1ポイント（全国差 －4.9ポイント）

中学校	回答
船橋市	80.8ポイント
全国	85.2ポイント

全国差 －4.4ポイント

１の回答について

船橋市　31.6ポイント（全国差 －5.8ポイント）

④考察

＜取組状況に関する調査について＞

総合的な学習の時間におけるICT機器の活用（情報の収集、整理、表現）に関しては、小中学校ともに肯定的な回答が全国平均を上回る結果であった。これは、ICT機器の活用推進とともに、児童生徒の情報活用能力が着実に育成されていることを示唆するものである。また、英語の学習についても、得意と感じている児童生徒の割合が全国に比べて高い。この背景には、小学校低学年から外国語活動として英語に触れる機会を設けていることが、要因の一つとして考えられる。

一方で、小学校の「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか」という設問や、中学校の「学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思うか」という設問では、肯定的な回答が全国平均を下回る結果となった。これらの結果から、児童生徒が安心して自己表現できる人間関係を学校・学級内で構築し、主体的な話し合いができる環境を醸成していくことが喫緊の課題であるといえる。

＜時間・頻度に関する調査について＞

授業におけるPC・タブレットなどのICT機器の使用頻度について、「ほぼ毎日使用した」と回答した児童生徒の割合は、小中学校ともに全国平均を上回った。ま

た、休日の学習時間についても、同様に全国平均を上回る結果であった。

他方、全国平均を下回った項目として、国語の授業における教員から児童生徒への個別のフィードバック（良い点の伝達、改善点の指導など）に関するものが挙げられた。設問は国語科に限定されているものの、そこで示された課題は全教科に共通する重要な視点である。そのため、全教員が授業における児童生徒一人ひとりとの関わり方を見直し、改善していく必要がある。

＜その他抜粋項目について＞

道徳教育に関する各項目では、総じて肯定的な回答の割合は高いものの、全国平均と比較すると低い傾向が見られた。特に、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」という設問への肯定的な回答が小学校で95.8ポイント、中学校で93.9ポイントであった点、また、「学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思うか」への肯定的な回答が小学校で67.1ポイント、中学校で60.5ポイントであった点は、相互に関連する課題である可能性が考えられる。これは、児童生徒が日常生活において、多様な意見が受容される経験を十分に積めていないことを示唆している。道徳教育の更なる充実に向けて、学校として組織的かつ継続的な対応が不可欠である。

教職員との関わりについては、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」という設問に対し、小中学校ともに約９割の児童生徒が肯定的に回答している。しかし、この数値も全国平均を下回っている。教員からの承認は、児童生徒の自己肯定感や自己有用感の向上に直結する重要な要素である。声かけの場面や方法を工夫するなど、授業内外での関わり方について、より意識的かつ重点的な実践が求められる。

（２）学校質問調査

①調査結果〔取組状況に関するもの〕

※調査内容について、「１：している」「２：どちらかといえばしている」や「１：当てはまる」「２：どちらかといえば当てはまる」等、肯定・否定の形式で回答する項目のうち、肯定的な回答を選択した割合で比較。

≪小学校≫

◇全国と比べ該当する学校の割合が高い項目◇

・学校では、調査対象学年の児童のうち、日本語指導が必要な児童に対して、特別な配慮に基づく指導をどの程度行っていますか

集計選択肢：１．十分に行っている
２．どちらかといえば行っている

	回答
船橋市	52.7ポイント
全国	26.3ポイント

全国差 ＋26.4ポイント
１の回答について
船橋市　23.6ポイント（全国差 ＋12.0ポイント）

・コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか

集計選択肢：１．そう思う、２．どちらかといえばそう思う

	回答
船橋市	96.4ポイント
全国	88.5ポイント

全国差 ＋7.9ポイント
１の回答について
船橋市　40.0ポイント（全国差 ＋5.6ポイント）

◆全国と比べ該当する学校の割合が低い項目◆

・学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか

集計選択肢：１．当てはまる、２．どちらかといえば当てはまる

	回答
船橋市	58.2ポイント
全国	75.2ポイント

全国差 －17.0ポイント
１の回答について
船橋市　5.5ポイント（全国差 －12.8ポイント）

・児童にとって、学校施設全体として、児童が学びや生活がしやすく、居心地のよい建物だと思いますか

集計選択肢：１．そう思う、２．どちらかといえばそう思う

	回答
船橋市	72.7ポイント
全国	83.3ポイント

全国差 －10.6ポイント
１の回答について
船橋市　29.1ポイント（全国差 －5.1ポイント）

≪中学校≫

◇全国と比べ該当する学校の割合が高い項目◇

・学校では、調査対象学年の児童のうち、日本語指導が必要な児童に対して、特別な配慮に基づく指導をどの程度行っていますか

集計選択肢：１．十分に行っている
２．どちらかといえば行っている

	回答
船橋市	65.4ポイント
全国	32.1ポイント

全国差 ＋33.3ポイント
１の回答について
船橋市　30.8ポイント（全国差 ＋16.5ポイント）

・近視の予防の一環として、学校の休み時間（昼休みを含む）や放課後などの時間（部活動の朝練・放課後練習を含む）に屋外に出ることや、読書や電子機器の使用などの近い所を見る作業に当たっての配慮事項（対象から３０ｃｍ以上目を離す、３０分に１回は目を休めるなど）について指導していますか

集計選択肢：１．指導している
２．屋外に出ることは指導しているが、近いところを見る作業に当たっての配慮事項は指導していない

	回答
船橋市	57.7ポイント
全国	39.1ポイント

全国差 ＋18.6ポイント
１の回答について
船橋市　26.9ポイント（全国差 ＋2.1ポイント）

◆全国と比べ該当する学校の割合が低い項目◆

・生徒にとって、学校施設全体として、児童が学びや生活がしやすく、居心地のよい建物だと思いますか

集計選択肢：１．そう思う、２．どちらかといえばそう思う

	回答
船橋市	65.4ポイント
全国	81.2ポイント

全国差 －15.8ポイント
１の回答について
船橋市　23.1ポイント（全国差 －1.0ポイント）

・調査対象学年の生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか

集計選択肢：１．そう思う、２．どちらかといえばそう思う

	回答
船橋市	46.2ポイント
全国	56.7ポイント

全国差 －10.5ポイント
１の回答について
船橋市　0.0ポイント（全国差 －8.7ポイント）

②調査結果〔時間・頻度に関するもの〕

※調査内容について、「１：ほぼ毎日」「２：週３日以上」や「１：３時間以上」「２：２時間以上、３時間より少ない」等、**時間・頻度の形式で回答する項目のうち、より多い（長い）回答を選択した割合**で比較。

≪小学校≫

◇全国と比べ該当する学校の割合が高い項目◇

・調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

集計選択肢：１．ほぼ毎日（１日に複数の授業で活用）
２．ほぼ毎日（１日に１回くらいの授業で活用）

	回答
船橋市	100ポイント
全国	82.8ポイント

全国差 ＋17.2ポイント
１の回答について
船橋市　72.7ポイント（全国差 ＋15.5ポイント）

・調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか

集計選択肢：１．よく行った、２．どちらかといえば行った

	回答
船橋市	98.2ポイント
全国	91.2ポイント

全国差 ＋7.0ポイント
１の回答について
船橋市　27.3ポイント（全国差 －0.9ポイント）

◆全国と比べ該当する学校の割合が低い項目◆

・前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか

集計選択肢：１．よく行った、２．どちらかといえば行った

	回答
船橋市	29.1ポイント
全国	67.0ポイント

全国差 －37.9ポイント
１の回答について
船橋市　5.5ポイント（全国差 －16.2ポイント）

・調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行いましたか

集計選択肢：１．よく行った、２．どちらかといえば行った

	回答
船橋市	67.3ポイント
全国	82.0ポイント

全国差 －14.7ポイント
１の回答について
船橋市　5.5ポイント（全国差 －11.7ポイント）

≪中学校≫

◇全国と比べ該当する学校の割合が高い項目◇

・調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

集計選択肢：１．ほぼ毎日（１日に複数の授業で活用）
２．ほぼ毎日（１日に１回くらいの授業で活用）

	回答
船橋市	96.2ポイント
全国	82.3ポイント

全国差 ＋13.9ポイント

１の回答について
船橋市　73.1ポイント（全国差 ＋13.3ポイント）

・調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

集計選択肢：１．よく行った、２．どちらかといえば行った

	回答
船橋市	92.3ポイント
全国	85.4ポイント

全国差 ＋6.9ポイント

１の回答について
船橋市　11.5ポイント（全国差 －13.9ポイント）

◆全国と比べ該当する学校の割合が低い項目◆

・前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか

集計選択肢：１．よく行った、２．どちらかといえば行った

	回答
船橋市	42.3ポイント
全国	72.0ポイント

全国差 －29.7ポイント

１の回答について
船橋市　15.4ポイント（全国差 －13.4ポイント）

・前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

集計選択肢：１．週１回程度、またはそれ以上行った
２．月数回程度行った

	回答
船橋市	65.4ポイント
全国	79.0ポイント

全国差 －13.6ポイント

１の回答について
船橋市　57.5ポイント（全国差 ＋10.3ポイント）

③考察

ICT機器の活用については、「前年度までに、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか」という設問に対し、「ほぼ毎日」と回答した学校の割合は、小学校で100ポイント、中学校で96.2ポイントに達し、全国平均を大幅に上回っている。このことから、日々の教育活動においてICT機器が特別なものではなく、日常的なツールとして定着していることがうかがえる。また、小学校では「児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したか」、中学校では「生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか」という設問でも全国平均を上回っており、各学校において児童生徒の実態に応じた主体的な学びが実践されていると考えられる。

一方で、「近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や共通の目標設定等に関する共通の取組をどの程度行いましたか」という設問に対し、肯定的な回答は小学校で29.1ポイント、中学校で42.3ポイントにとどまり、全国平均を大きく下回る結果となった。小学校における教科担任制の導入や小中合同研修会の開催、教科の系統性を踏まえた研究授業の相互参観など、小中学校間の連携に向けた取組はすでに行われている。しかし、今回の結果を踏まえ、児童生徒の実態や地域の実情に応じて、連携のあり方をさらに工夫し、実践を継続していく必要がある。

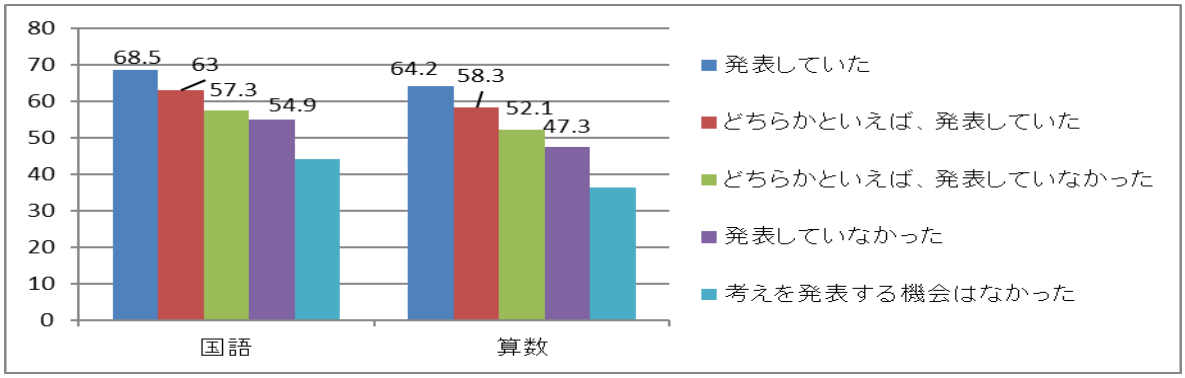
最後に、「令和７年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用したか」という設問に対し、肯定的な回答が８割を超えていた。今後も、本調査の分析結果を各学校の実態に応じた授業改善や指導力向上に繋げ、児童生徒が主体的に取り組む学習活動の充実が図れるよう、各学校への支援を行っていくことが重要である。

（３）児童生徒質問調査と学力調査の平均正答率における相関関係

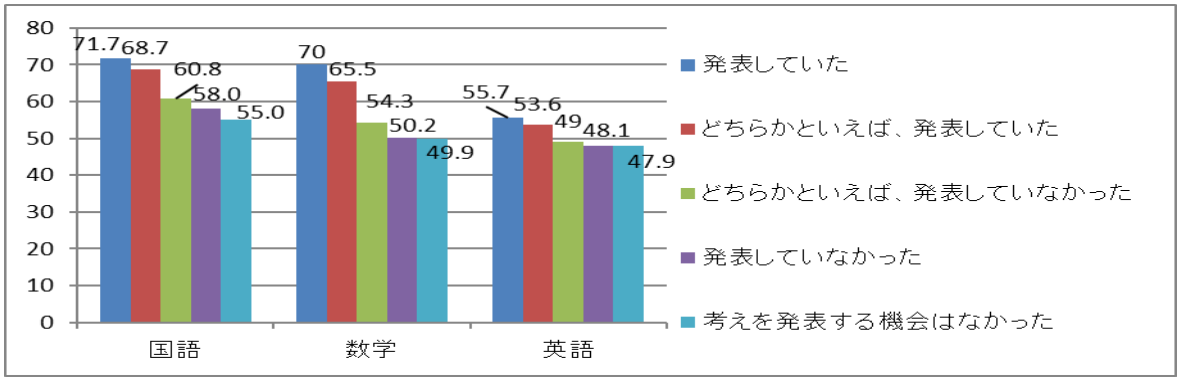
グラフの数値は、児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率を表す。特に、以下の質問に対して肯定的な回答をした児童生徒は否定的な回答をした児童生徒との平均正答率の差が大きい傾向にある。※中学校英語のIRTスコアは1/10の値で表示

① ５年生まで（１、２年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

＜小学校＞

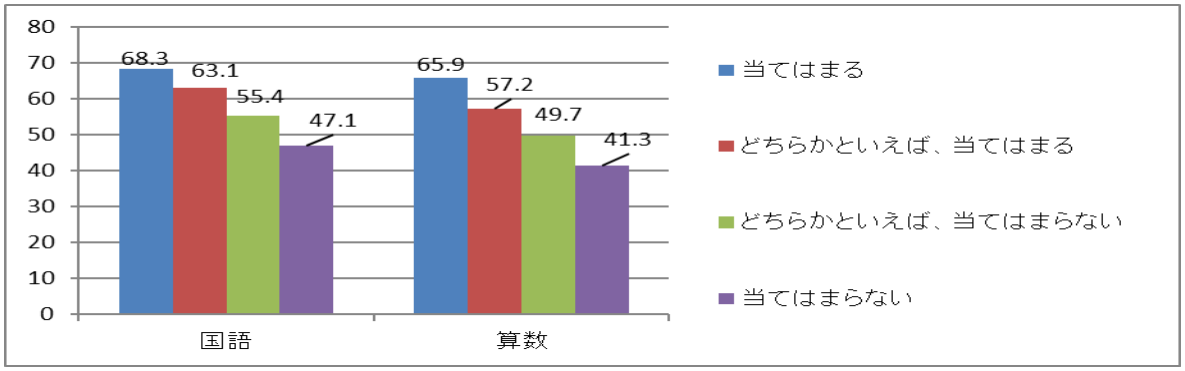


＜中学校＞

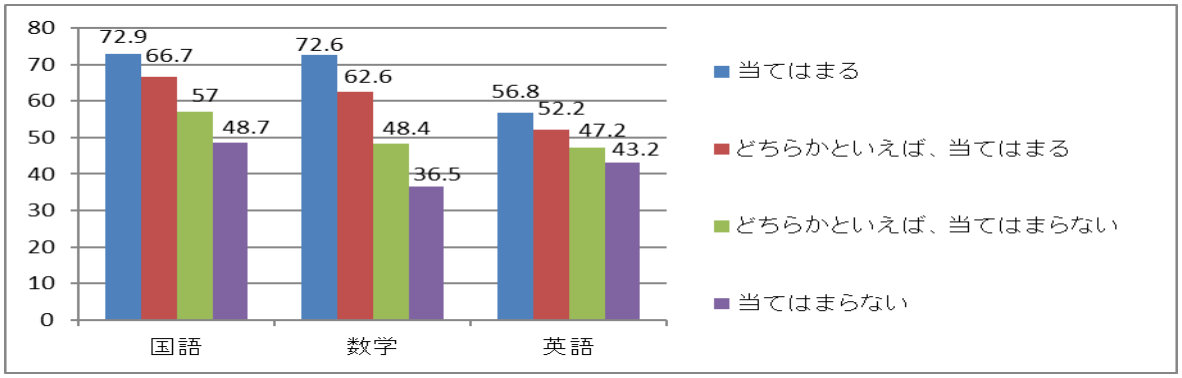


② ５年生まで（１、２年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

＜小学校＞

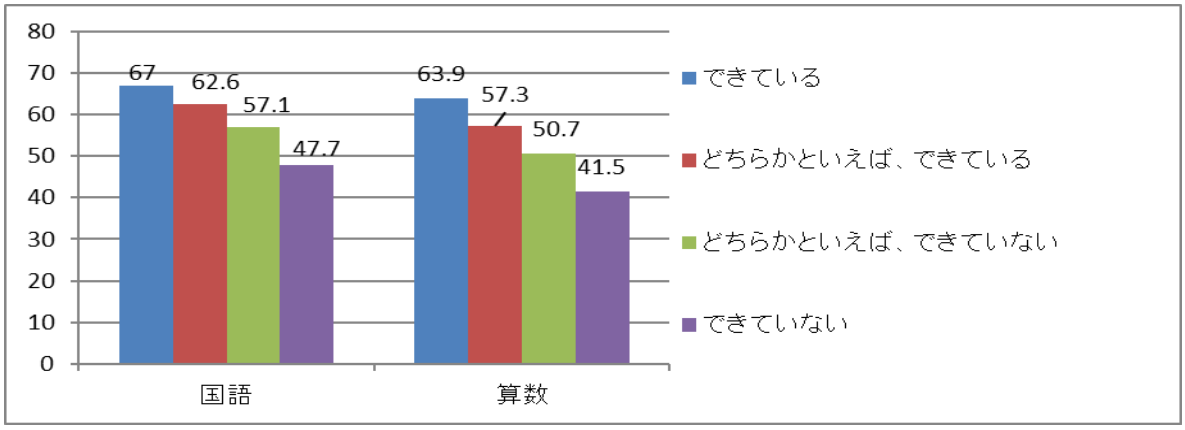


＜中学校＞

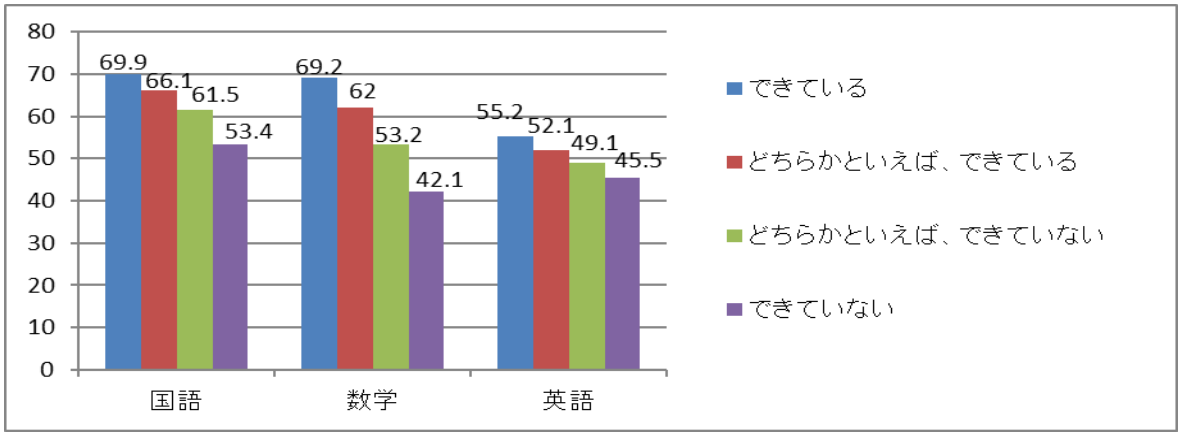


③ 分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

＜小学校＞

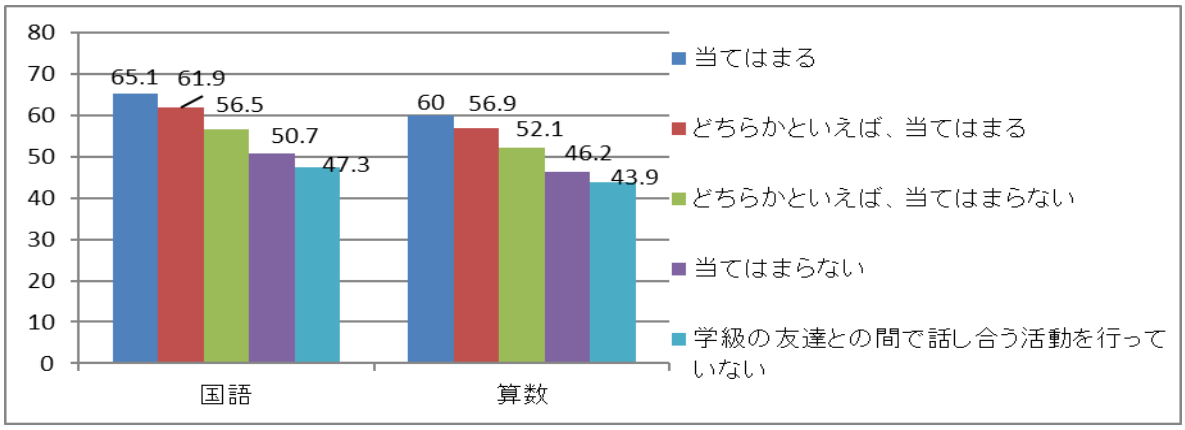


＜中学校＞

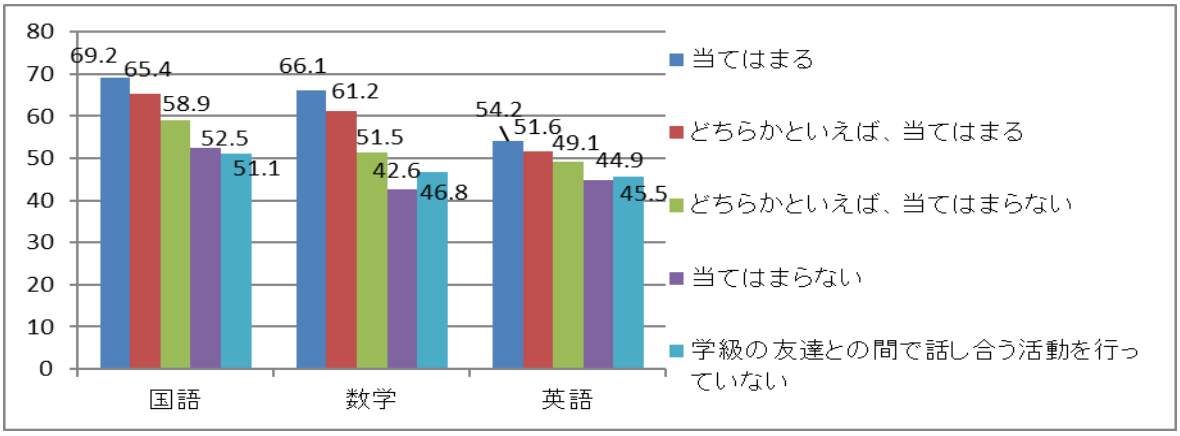


④ 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

＜小学校＞

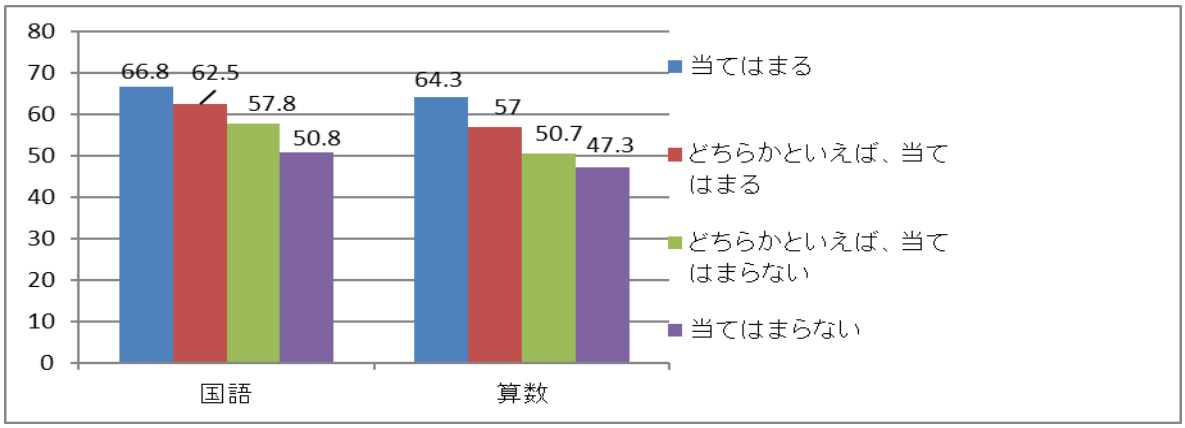


＜中学校＞

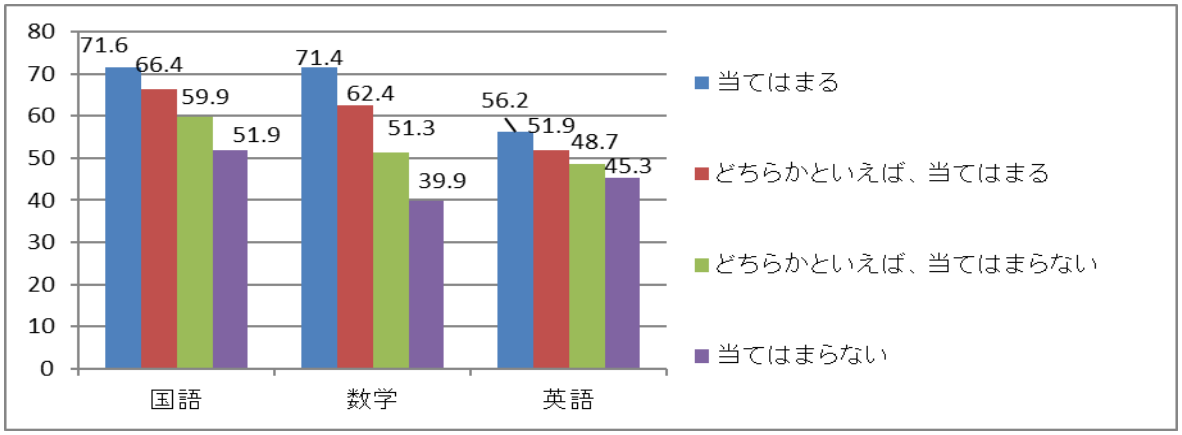


⑤ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

＜小学校＞

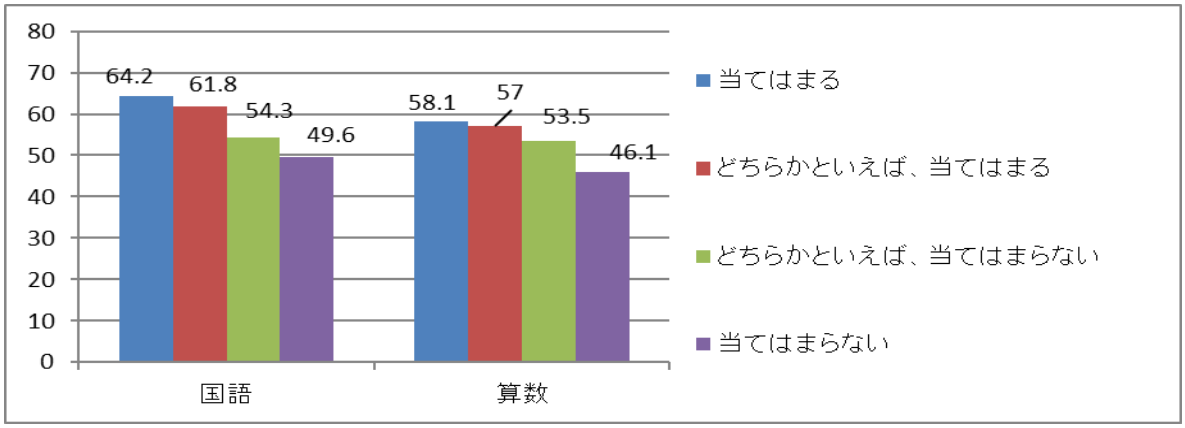


＜中学校＞

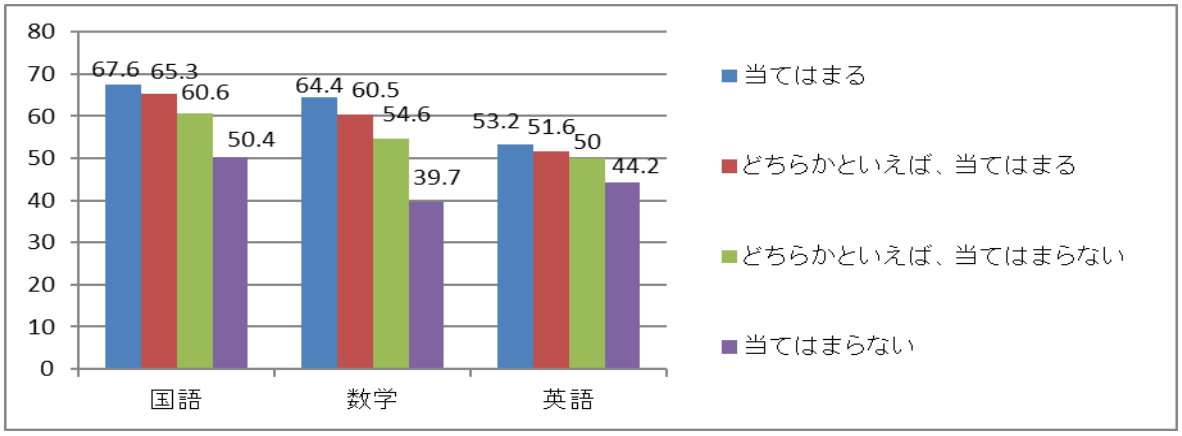


⑥ 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

＜小学校＞



＜中学校＞



＜考察＞

小・中学校の調査結果において、以下のような主体的な学習行動を実践できている児童生徒ほど、学力調査における正答率が高いという明確な相関関係が確認された。

・課題の解決に向けて自ら考え、自ら取り組むこと

⇒「課題解決に向けた主体的な思考と実践」

・分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、
自分で学び方を考え、工夫すること

⇒「探究的な学習における方法の工夫」

・話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、
新たな考え方に気付いたりすること

⇒「対話的な活動を通じた思考の深化」

・友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに
協力しながら課題の解決に取り組むこと

⇒「他者と協働して課題を解決する姿勢」

・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、
資料や文章、話の組立てなどを工夫してすること

⇒「発表場面における表現方法の工夫」

・分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげること

⇒「学習内容の振り返りと次への活用」

この結果は、学習の理解を深めるためには、自らの学びを調整する力が不可欠であることを示唆している。そのため、今後の学習指導においては、これらの力の重要性を児童生徒に伝えるとともに、その育成を目的とした学習課題の設定や学習方法の工夫を、より意識的に実践していく必要がある。

４　調査結果の今後の活用について

（１）学校は、調査結果をもとに、自校の学力・学習状況を分析する。自校の分析結果から、課題となる学力や学習状況を明確にし、授業研究や授業での具体的な方策（言語活動の充実、文章表現による記述等）を取り入れるなど指導法の改善を図る。更に家庭に情報提供し、自校の児童生徒の学力向上に努める。

（２）教育委員会は、県・全国の平均正答率や質問調査の回答状況と比較し、分析することで施策の立案や改善を図る。

５　留意事項

調査結果については、測定できるのは学力の一部分であることを踏まえ、序列化や過度な競争につながらないよう十分配慮する。

※船橋市内個々の学校名を明らかにした平均正答率の公表は行わない。